



## 21世紀に誕生した東ティモールへの強い期待

元・東ティモール駐劄特命全権大使 日本東ティモール協会 会長 北原 巖男

抱える課題や環境が千差万別の開発途上国にあって、国民の健康と命を守る保健医療態勢の整備・向上は、各国に共通する焦眉の急です。松本謙一会長はじめ OMETA 会員の皆さんは、それぞれが展開する途上国にて、彼らに寄り添いながら親身なご尽力を続けています。皆さんに申し上げることが出来ます。

「途上国の人々は、正に OMETA 会員の皆さん一人ひとりを通じて、日本人の善意を受け留めています」

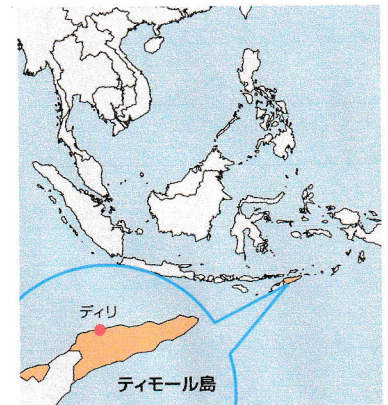
民主主義国家として日本と良好な友好協力関係にある東ティモールは、2002年5月に誕生したアジアで一番新しい21世紀最初の独立国です。沖縄県の宮古島の真南5000km、岩手県ほどの全国土面積に約130万人が暮らす小さな国。合計特殊出生率4.0は、日本と真逆の右肩上がりの人口増を示しています。それだけに、国父グスマン首相を先頭に国造りに取り組んでいるこの平和で若い国にとって、次代を担う人材の教育や産業育成、若者の雇用対策は極めて重要です。同国は、したたかな全方位外交も展開しており、期するは来年(2025年)11番目のASEAN加盟国になることです。

この国がここに至るまでには、16世紀初頭から450年間にわたるポルトガルの植民地統治。1942年2月から

終戦まで日本軍の占領。戦後再びポルトガルの植民地に。そして1975年11月に独立を宣言するや否や、今度はインドネシアによる大変厳しい24年間の併合という歴史がありました。

独立回復後、東ティモールとインドネシアは未来志向の緊密な関係を築き挙げて来ています。本年4月に初の外国訪問先として中国に伺い習近平国家主席と会談、続いて日本を訪問して岸田首相と会談したプラボウォ次期インドネシア大統領(10月就任予定・元インドネシア陸軍特殊部隊司令官)の下でも、両国が和解と友好協力関係を世界に示して行くことが強く期待されます。

「まことに小さな国が、開化期を迎えようとしている」(司馬遼太郎著「坂の上の雲」)こんな言葉が重なる今の東ティモールです。



「OMETA NEWS」2024年6月号 No.9

NPO 法人 海外医療機器技術協会の発行

(OMETA: Overseas Medical Equipment Technical Assistants)